

弘法大師像“里帰り”

筑波山の老舗旅館「江戸屋」(つくば市筑波)に預けられていた弘法大師像が、百数十年ぶりに筑波山大御堂(同市筑波)に里帰りする。弘法大師像は明治時代初期、当時の廃仏毀釈の難を逃れるため、地元の人が大御堂から持ち出して江戸屋に預けたとされ、以来、江戸屋が「命がけて守ってきた」(大女将の吉岡久子さん)。十五日に遷座式が開かれ、弘法大師像は大御堂に安置される。

大御堂は七八二(延暦

百数十年ぶり筑波山大御堂に



元年、徳一法師によつて開かれ、弘法大師によつて真言密教の霊場となつたという。筑波山神社

元 年、徳一法師によつと神仏習合により信仰されて開かれ、弘法大師によつて真言密教の霊場となつたという。筑波山神社

かくまい保管の旅館から

きたらしい」(吉岡さん) 江戸屋は一六二八(寛永五)年の創業。江戸時代から多くの参拝客でにぎわった。旅館は戦時中、米軍機の機銃掃射も受けたが、「戦時中もいつもそばに置いていて、当時はそんなに大事なもののかと思っていた」と吉岡さん。 昭和五十年代ごろまでは東京からこの弘法大師像を参拝に来る人たちもいた。吉岡さんは「弘法大師像は旅館を守ってくれた存在。今後は地域全体を守ってもらえれば」と話している。(大高茂樹)